

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401077		
法人名	有限会社 はる		
事業所名	グループホーム はる		
所在地	熊本県玉名郡玉東町西安寺302-1		
自己評価作成日	平成30年10月31日	評価結果市町村受理日	平成31年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、静かな自然の中にあり正面には三の岳を眺めることができます。天気の良い日には、テラスに出て外気浴をしたり、台所では入居者の方が野菜を切ったり食器を拭いたり家庭的な雰囲気の中、ホールでは入居者同士また職員も参加して会話が弾み笑顔が絶えません。職員は入居者を家族の一員として、その人らしい生活が出来るよう、グループホーム内だけでなく、家族や地域とのつながりを大切にしています。入居者の一日の生活で、午前中はみんなでラジオ体操やレクレーションを楽しみ、午後からは、入居者と職員がゆっくりと過ごせる時間を大切にしています。入居者のその人らしい生活がお手伝いできるよう、職員がチーム全体の雰囲気、チームワークを大切に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫展(評価機関入力)】

ホームは当初より「豊かな自然の中で自分らしく笑顔で暮らす家」として、自然を生活の中にうまく取り入れながら、一人ひとりが自分らしさを失うことなく暮らすことを目標としている。地域資源を活かした交流や外出は継続され、顔なじみの人々との付き合いが入居者の生活に張りや喜びをもたらしている。二か月ごとの運営推進会議はリビングを会場とし、入居者の表情をみながら開催されており、地域の参加が多いことも特徴となっている。本年度より「身体拘束廃止委員会」を会議の中に設置し、拘束ゼロへの取組を発信しながら、一人ひとりの尊厳を重視したケアの実践に取り組んでいる。個別支援の充実を図っており、外出傾向の方にも寄り添いながら一緒に近隣に出たり、目の高さに合わせて会話することを心掛けるなど、一人ひとりを重んじながら対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は出来ていて、日頃のケアで迷うことがあれば、理念を振り返り、理念を柱としたケアを実践している。	5項目の理念は開設時より受け継がれており、理念を踏まえながら「豊かな自然の中で自分らしく笑顔で暮らす家」を、ホームの基本姿勢としている。緑豊かな自然を日々の生活に取り入れ、笑顔あふれる暮らしを実現するために努力している。「その人の言動を否定しないケア」は、外出傾向の入居者に寄り添い近隣の散歩に出たり、正面から目の高さで話を聞く姿に表れており、月の会議で唱和し、新たに入職した職員は入居者への基本対応について学んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	どんどやや、地区のお宮に初詣。保育園児の歌の発表に来てもらったり。定期的開催しているコンサートには、地区の方も案内して楽しんでいただいている。	地域資源を活用した買い物や、入居者に馴染みの地区の神社へは、関係者に手伝ってもらいながら初詣が実現している。卒園を控えた保育園児のミニ発表会、定例となった「弥栄さんのコンサート」には、地域や他の施設にも声かけし、賑やかなひと時を過ごしている。開設時より講話に訪れる地元住職の来所も、入居者に馴染みの行事の一つとして定着している。	立地上近隣との日常的な交流はないものの、地域の同業者や商店、寺、保育園などとの交流を継続し、入居者が人々と触れ合う機会を計画、支援しており、今後の展開に期待したいところである。また、公道からのホーム入口に看板があればと考える。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玉東町の医療・福祉の連携のチームに参加していて、今年は町民対象の勉強会で、認知症でなんダロ？グループホームでなんダロ？をテーマで発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム内で実施していて、グループホームの雰囲気を感じて頂いて、取り組みや活動報告以外にも感じた事の意見もいただいている、今年は、「玄関前が寂しいのでお花でも？」と提案して頂いて、玄関にプランターを置きました。	ホームリビングを会場として行政や社協、地域代表者やボランティア協力者が参加している。時には実習生に同席してもらい、地域との関係性やホームの取組を実際に体験してもらってことで実習の一環としている。年度初回の会議より「身体拘束廃止委員会」の設置により、会議の中で取組を報告し、参加者と共に検討していくことを申し合わせている。	参加者の多い会議であり、行政や地域からの長年に渡る協力が得られている。ただ、参加の無い家族へは今後も引き続き会議の案内を期待したい。また、議事録の開示については、家族の集まる機会に口頭で説明することも検討願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも、議長として参加して頂いて、意見・助言頂いている。何かあれば、。直接会って相談したり、メールで相談したりと、協力関係を築いています。	運営推進会議には包括や社協からの参加があり、ホームの現状を共有し、意見や提案を運営に反映させている。計画作成担当者は、困難事例を行政担当者に相談し、適切なアドバイスを得たり、研修案内には出来る限り参加するように努めている。町の介護相談員の2か月ごとの来所により、入居者の思いを確認し、日々の支援に反映するようにしている。	本年度感染症の発生により、様々な点において運営に支障が出ているが、過度の対応によりこれまで築いた入居者との関りが薄れる事のないよう、十分な配慮を願いたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者はじめすべての職員が身体拘束の内容とその弊害を4月、10月の勉強会にて周知徹底し身体拘束をしないケアを実践している。	今年度「身体拘束廃止委員会」を運営推進会議の中に設置し、参加者へ取組を報告して質問や意見を受けている。スタッフ会議でスピーチロックに繋がる言葉「14の禁句」について共有し、「ダメよ、明日でよかろう、暑かけん、寒かけん、危ないからなど」具体例を自身に置き換えながら振り返る機会を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年、熊本グループホームでの暴行殺人事件もあり、熊本地域密着型サービスの緊急ミーティングにも参加。事業所内では、虐待防止に向け職員の認知症ケアの知識向上、職員のストレス軽減に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会職場内で実施し、日頃より利用者の権利(意思決定・尊厳)が侵害されていないか？不適切なケアが行われていないか？振り返りケアに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い、同意を得て、疑問が生じたときには、都度説明を行い理解・納得していただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見箱を設置している。家族が面会に来られたところは、積極的に会話を多く持ち家族の意見、要望を聞き出せるよう、管理者や職員が心がけている。	職員は家族の面会時には入居者の現状を伝えながら、直接意見を聞くように努めている。ホーム広報誌「はる便り」で入居者の普段の表情を写真で伝えており、家族も心待ちにされている。入居者の意見は1対1でじっくり関わる中で話を聞き、選択肢を投げたり、表情を見ながら入居者の言葉に耳を傾けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行っている、朝礼や月に一度のケア会議か勉強会。月に一度のスタッフ会議を通じて、職員の意見、提案を聞く機会を設けて、改善、実践している。	月の会議には代表者も参加し、職員の意見や要望を直接聞いており、職員とともに日々ケアに入りながら、入居者の現状を把握している。管理者は職員の意見を代表者に伝えたり、必要な物品購入について提案している。ホームは地域高齢者を共に考える「チーム玉東」に籍を置き、医師や社協、包括や福祉施設などと連携し、情報の共有や今回ホームが発表した看取り事例を通じて、デスクカンファレンスを開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望などを勤務表に反映させている。給与面では諸手当等をアップしてやる気につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内で、認知症ケア振り返りチェック表を使用して、個人の認知症ケアの知識、介護方法アセスメント能力について課題の抽出が出来たので、職場内研修や外部研修に参加してケアの向上に繋がるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加し。会議や研修会を通じて、各事業所の課題等相談の場としても活用できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会して、本人らしい生活が維持できるよう、性格、生活、中核症状を少しでも理解して、職場内でケア会議を開き、本人が入所と同時に不安な生活にならないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、利用者がどのように生活されておられたかをしっかり尋ね、今までの生活できるだけ変えないようにして、安心暮らしていただけるように支援していくことをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の変化に応じて他のサービスなどを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ないことではなく、出来ることに目を向け、家事など職員と一緒に活動している。お手伝いして頂いた後は必ず、「ありがとうございます」感謝の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のはる便りで、日頃の生活の様子を報告している。受診、面会、支払いの際に、職員一人一人が本人様の情報を共有し家族に色々な話ができるように心掛けている。何か問題が生じたときには、ご家族に相談してから方向を決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容店への支援や地区の敬老会への参加や本人の誕生会には、家族に参加して頂けるようにしている。	職員が掲げる月目標に3月は「昔の話を聞いてみよう」をあげ、入居者のこれまでに焦点をあて、ゆっくり話を聞く時間を持っている。月目標の設定は運営推進会議の中でも紹介している。盆・正月の日帰り帰省、他施設に入所する家族との面会や家族を呼んでの誕生会などこれまでの関係性が途絶えない関わりを継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の人間関係を把握し、自然な関係が出来るよう、無理に仲介に入らず、見守りを重視している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退所後も情報提供など、その後のフォローに努めている。毎月一度ご住職に来ていただいて、法話を行い故人を偲んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を上手く表現できない方が増えてきたが、職員各自がその人らしい生活を実現するためには何が必要か随時カンファレンス等を行いながら支援が出来るように努めている。	毎月の月目標を意識し、職員は忙しい中でもそのそぶりを見せない様入居者と接することを心掛けている。会話の中に思いや希望を聞き取り、表現が困難になられた方へも話しかけた時の顔の表情やしぐさで推察したり、家族の意向を仰いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や、入居後に本人やご親族等からの話をもとに、これまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方のペースを大切に、日々心身状態の観察を行いながら、状態の変化がある時は逐一訪問看護スタッフ等と連携を図っている。日常生活において出来ること、出来ないことを観察し、記録やカンファレンス等にて情報共有を行いながら日々のケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、介護者、医療関係者から意見を抽出し、安心安全な生活が送れるよう計画作成、評価に繋げている。	本人・家族の思いを聞き取り、会議であがった職員の声を反映したプラン作成に努めている。担当者会議には事前に主治医や訪問看護スタッフの所見や意見を取りまとめ、入居者の心身の状況に照らし、必要な支援を盛り込んでいる。計画作成担当者は家族の中にも高齢化が進んでいることから、プランを通じて入居者の現状を分かりやすく説明しながら了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に心身状態の変化や対応において気付いたことを具体的に記録し、評価・計画作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族のニーズに応じて事業所としても可能な限り柔軟に対応している。対応した際には記録にしっかりと残すようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回地域の寺より法話に来ていただいたり、定期的に地域の理髪店に訪問していただいている。地域のスーパーに入居者と一緒に買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度訪問看護スタッフが訪問し入居者全員の心身状態をチェックしていただき、状態変化ある際にはかかりつけ医との連携を図っており、受診付き添いも定期的に行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、協力医への受診や緊急時の往診、希望する医療機関へ家族によって受診対応が行われている。また、週1回の訪問看護支援が行われている。受診と訪問看護ノートにより、状況を共有し、家族へも結果や気になる点を伝えたり、相談に応じながら、適切な医療支援ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護スタッフと連絡ノートを活用し連携を図っている。また、入居者の急変時には、電話やメールにて連絡し指示を仰いだり訪問していただき状態確認、必要時受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、入院中の状態確認のため定期的に面会、病院スタッフから情報の聞き取りを行っている。退院時にはカンファレンスを開いて頂くよう協力を促している。退院後の介護計画作成をし必要時助言頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態悪化時には、担当者会議を行い、本人・家族の意向確認と関係者同士の連携と方針を話し合っている。スタッフ間でも随時カンファレンスを開催し、ケア内容の共有に努めている。	入居者が重度化や状態が悪化した場合、担当者会議により意向の確認と、今後の方向性を話し合うこととしている。急変時の対応については、不十分であるとし、研修会を含め、課題に挙げている。	事前指定書については、全入居者より早めに受ける事が必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態急変や事故発生時の対応については、まだ不十分なところがあり、今後の勉強会で学習していく必要があり、課題でもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を実施している。勉強会で今後防災対策を学習していきたい。	今年度は11月に消防機器業者の参加を得た避難訓練を実施しており、年度末も消防機器業者と消防署参加の訓練を予定している。1回目の訓練では、避難した入居者の確認を重複して行ったことなどが反省としてあがっている。	災害備蓄については水やレトルトご飯などが用意されているが、今後は不足がないか、また、卓上コンロがすぐに使えるかなど、確認されることが必要と思われる。また、入居年数の長い方は特に、居室内の物品も多くなっており、避難の妨げになる物はないか、コンセントの埃など定期的な確認が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関わりの中、人生の先輩として尊厳は守られているか？言葉掛けや態度は、不適切ではないか？日頃から振り返り実践している。	入居者は人生の先輩であり、尊厳を持った支援であるか、振り返る機会を持っている。呼称は苗字や下の名など反応などから個々に応じて検討している。同性介助については、希望を聞き可能な限り対応している。身だしなみについても季節や要望を聞き支援しており、中にはエプロンを身に着ける事で、生きがいを持たれる方もおられるようである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では、本人必ず声掛けを行い、介護者が焦らず答えを待つよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活できるよう、介護者が慌てない、焦らない、待つ姿勢を忘れないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理解力が低下されてる方にも、介護者が一方的に服を選ぶのではなく、利用者様に確認してもらうよう心掛けている。馴染みの理容店の利用支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの、野菜切、盛り付け、食事終えてからの食器拭きなど職員と一緒にしている。介護度の高い方にも味見など出来ることをお手伝いして頂いている。誕生日会のメニューには、本人に食べたい物を聞き出し提供している。	以前は献立作成から調理までホームで行っていたが、現在は調理済みの副食を利用し、主食のご飯のみホームで炊いている。そのため食材の下ごしらえや調理をはじめ、入居者が食に関わる機会は持たれていない現状である。管理者は今後の食事支援の変更については、家族へも理解を求めながら、職員の声掛けなどにより、食事の雰囲気高めたいとしている。	食材の下ごしらえや調理、配膳、盛り付けをはじめ、入居者の出番がなくなったことは残念であるが、料理番組を見たり、食に関する話題などにより、食への関わりを支援いただきたい。また、衛生管理が入居者の気持ちを損なわないよう十分な配慮を願いたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量と水分量を記録し、一人ひとりの状態把握に努めている。水分が上手に摂れないお方には、好みの飲み物や小さめのカップで促したり、ストローを使用したりして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔ケアのレベルを見極め支援している。歯磨き、義歯洗浄だけでなく、舌ブラシを使用して口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせてトイレ誘導を行っている。夜間、歩行が困難な方にはポータブルトイレに排泄していただいている。夜間は尿取りパッド内に排泄されている方も、日中はトイレでの排泄を促している。	個々に応じた声掛けや誘導を職員間で共有し、基本的に日中はトイレでの排泄を支援しているが、身体状況から昼夜ポータブルトイレを使用する方もおられる。昼間は殆どの方がリハビリパンツを使用されているが、布パンツの方もおられる。また、一人が夜間のみオムツを使用されている。トイレは清潔を心掛け、使用後は手洗いとペーパータオルによる手拭きを徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食に食べて頂いているヨーグルトの中にオリゴ糖を入れている。レクレーションにも適度な運動を取り入れた。自然排便が難しい方は、かかりつけ医と連携し薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴も清潔保持だけでなく、入居者の楽しみと捉え入浴中も声掛けを絶やさないよう努めている。介護度が高い方も安心して湯船に浸かって頂けるよう、二人介助で対応している。	入浴は週2～3回、希望によるシャワー浴なども取り入れながら対応している。また、清潔保持に加え、入浴前の誘導や浴室内でも寛いでもらえるような声かけをしながら支援している。一人で入られる方のさりげない見守りや、介護度の高い方には2名介助するなど、個々に応じて安全な入浴が出来る様になっている。季節湯(菖蒲・柚子)を支援する際は、数日間実施し全員が楽しめる様にしている。	浴室の棚に置かれたシェーバーについては、安全面や衛生面からも別の場所で管理されることが望ましいと思われる。検討いただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、傾眠が強かったり、疲れてる様子がある方には、居室で休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が薬服ようされる時は、そばを離れず口の中に入るまで見守る。服用後の薬袋は確認できるようにすべて回収している。薬が変更した時は職員内で共有し観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いを役割とされてる方もいるので、お手伝いして頂いたら感謝の気持ちを伝えている。日々楽しい事を意識して日々の利用者との関わり会話の中で笑顔が引き出せるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子や介護度の高い方も、天気の良い日は、テラスに出て日光浴や風、景色を感じて頂いている。また閉じこもりにならないよう外出支援できるよう心掛けている。家族の協力で、墓参りや外泊される方もいらっっしゃいます。	車椅子の利用者も多い現状であり、天候の良い日は庭先に出たり、テラスでの日光浴など、入居者に無理のない外出支援に努めている。また、他のグループホームとの合同イベントに参加し踊りを披露したり、地域資源を活用し、町のグラウンドでの花見や近隣のお宮に初詣に出かけている。個別支援として散歩や行きつけの美容室へカット、毛染めに出かける方もおられる。自宅への帰省や外泊は難しくなっているが、正月に日帰りで帰られた方や、家族の入所先に面会に行かれる方など、協力が得られている。	今後も花見などのイベントをはじめ、家族の参加・協力を得ながら入居者と一緒に外出を楽しむ機会を支援されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者は金銭管理が難しい為、ホームでお預かりしている。本人より希望があれば、預り金から買い物など楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話があった時には取り次いでいる。でんわちゆうは、会話がちゃんと出来ているかさりげなく確認し上手くできていないときにはサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井を高く、窓を大きくして、圧迫感がないようにし、ホールには、季節感を出せるように季節の花を飾ったり、レイアウトに工夫している。利用者が書いたもの等掲示している。空気の入替えにも気を配りて行っている。	入居者が食事やテレビ視聴などで過ごすリビング食堂は採光も良く、状況に合わせてテーブルを配置しており、入居者は隣の煙を眺めながら穏やかに過ごされている。段上がりの畳の間は入居者の身体状況から開設時のような使用は難しくなっている様である。ホーム内は掃除や換気により、臭気などないよう十分注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置においては、入居者同士の相性も考えており、円滑なコミュニケーションが図れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力してもらい、本人の馴染みのある家具や小物を持って来て頂いている。写真やプレゼントを飾ったり利用者が書いたものなど飾っている。	居室環境については本人が安心して過ごせるよう、入居時に自宅にあるものや本人の使い慣れた品を持ってきて欲しい時伝えている。入居年数の長い方もおられ、身体状況に応じて物品の配置を見直したり、こだわりの環境が継続できるよう配慮している。家族による季節の衣類や寝具の定期的な確認は少ない現状であり、職員は衣替えを含め、必要な衣類などがあればその都度家族へ報告を行っている。また、天気の良い日はベランダへ寝具を干す機会も持っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすいように段差や障害物を極力少なくしている。家具やベッドの位置をできるだけ変えないようにし、見慣れた環境の維持に努めている。。		